

桑野小学校「学力向上実行プラン」

- 各学年の発達段階に応じた主体的・対話的な言語活動の充実
- 児童が、自分で考え、判断し、行動できる授業の構築

学力向上推進員	委員	校長 教頭 教務 研修 特別支援コーディネーター	吉本 憲司 青木 良樹 兼任 圭子 土肥 優子 宮本 敏美	竹浦 あかね
岡田 希				

校長

吉本 憲司 印

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や、教員からの報告や研修等を踏まえ、取組み状況の把握を行う。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自主的に課題に取り組むことができ、めあてに対する振り返りやまとめをするという定着が見られる。 ●既習の学習内容が定着している児童とそうでない児童の二極化が見られる。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ・言語活動を充実し、内容や要旨を捉えながら読んだり、目的や意図に応じて書いたりすることができる児童を80%以上にする。	・計画的に単元構想を考え、ユニバーサルデザインの視点を活かした指示・発問の出し方や活動方法、板書の工夫を図る。 ・学んだことを反復できるようにミニテスト等で繰り返し学習の定着を図る。 ・目的や意図に応じて必要な情報を捉えながら読み書きの活動を充実させる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを最後まできちんと伝えたり、自分の考えと比較しながら相手の意見を聞いたりする児童が多い。 ●話の根拠となる理由を述べたり自分の考えを深めたりすることに課題がある。	・必要な課題を明確にし、目的に応じて情報を収集・整理・分析することができる。 ・根拠や理由を明らかにし、自分の考えを表現することができる児童の割合を80%以上にする。	・発達段階に応じた主体的・対話的な言語活動の指導を充実させる。「話し方の話型」の活用など。 ・ペア学習や小集団学習などの話し合い活動を積極的に取り入れながら、自己表現できる場を設定する。 ・視写学習を継続させ、語彙を増やしたり、表現力を身に付けさせる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業準備をし、授業のスタートがスムーズに行えるようになっている。授業に向かう姿勢や集中力も高い。 ○読書習慣が身に付いてきている。 ●自ら課題を見つけたり、不得意な課題に対して主体的に取り組んだりすることが苦手である。	・学習規律を整え、児童が主体的に授業に取り組むことができる。 ・課題を自分事として捉え、見通しをもって粘り強く取り組むことができる。 ・学校や家庭で、進んで読書をする習慣を身に付ける。	・学習規律を整え、児童が主体的に課題解決・探求することができる場とまとめが行える授業を展開する。 ・学校や学級における生活上の課題を見つけ、話し合いで解決していく学級活動を推進し、児童に自信や達成感をもたせる。 ・図書館サポーターと連携しながら、週末読書を進めていく。			

令和2年度 学力向上ロードマップ

